

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 #最終回 原作シナリオ

山崎浩治

1 金沢駅新幹線ホーム

新幹線が到着し、中からスーツ姿の吉岡が下車してくる。

2 夜の片町を歩いてくる吉岡

3 「スナック香澄」表(夜)

吉岡、ドアの前に立っている。

吉岡のOFF「東京に転勤して以来、1年ぶりか……」

× ×

香澄「吉岡さんのことはずっと好きじゃなかったの。だからもう……お店に来ないで」

× ×

吉岡のOFF「そんなのムリに決まってるだろ」

吉岡、ドアを押して入っていく。

4 同・店内

吉岡「久しぶり、香澄！ 金沢に戻ったついでに……(言葉をのむ)」

カウンターの中にいるのは――美鈴。

吉岡「……どうして？」

5 オープンカフェ(翌日)

一角にいる香澄、スケッチブックを開いてペンを走らせている。

その姿を店の外の物陰から見ている吉岡。

美鈴のOFF「毎日、吉岡さんが店に来るのを待ってたんだよ、香澄ママ」

吉岡の後ろに立っている美鈴。

美鈴「吉岡さんが東京に転勤したこと、すぐに忘れちゃうの。アルツハイマーって、最近の記憶から消えていくから。香澄ママ、若いから進行が早いの」

香澄、店の外にいる吉岡と美鈴に気付く。

吉岡「香澄！（思わず一歩踏み出す）」

香澄、何事もなかったように視線をスケッチブックに戻す。

美鈴「最近はあたしのことも忘れてる日が多くなってるんだ」

吉岡「(衝撃を受けている)」

美鈴のOFF「吉岡さんが転勤した後もしばらくお店に出てたんだけど、お客さんの顔を忘れてたり、火の扱いもできなくなって……」

美鈴「香澄ママは絶対に治ると思ってる。だからあたし、香澄ママが帰ってくるまでスナック香澄を守るんだ」

吉岡「(カフェにいる香澄の横顔を凝視して)……」

美鈴「吉岡さんは香澄ママのこと、忘れていいよ。あたしがいるし、香澄ママのお母さんだっている」

香澄に話しかけている年輩女性(香澄の母)。

母に促され、オープンカフェを立ち去る香澄の後ろ姿。

吉岡「(その姿を見送って)オレは平凡な男だ。なんの取り柄もない。でも一つだけ誇れることがある」

小さくなっていく香澄の背中に――

吉岡「オレはずっと香澄のことが好きだ。香澄を忘れた人生になんの意味もない」

#6 吉岡家・居間(夜)

吉岡とその母が硬い表情で向き合っている。

吉岡の母「アルツハイマーの女と一緒にいる？ だらなこと言うな！ 何も好き好んでタカオが苦勞することはない！」

吉岡「母ちゃん、結婚する時、親父が病気でもう長くないって知ってたんだろ？」

吉岡の母「(言葉に詰まる)」

吉岡「苦勞するの分かっててオレを産んだんだろ？ それはどうして？」

吉岡の母「(そっぽを向いて)父ちゃんのことが好きで好きで仕方なかったからや」

吉岡「(ふっと微笑んで)オレも母ちゃんと一緒なんだよ」

吉岡の母「(苦笑して)反対しても言うことを聞かんことは分かっった。母ちゃんも昔、父ちゃんとの結婚を反対されたからな。つまらんとこだけ親に似おって。勝手にせえ(涙をさりげなく拭いて部屋を去る)」

#7 オープンカフェ(別の日)

スケッチブックに絵を描いている香澄。

OFF「あの、すみません」

香澄、顔を上げると、吉岡が立っている。

香澄「(訝しそうに吉岡を見上げ)……」

吉岡「オレ、金沢第一高校にいた同級生の吉岡」

香澄「ごめんなさい、あたし……」

吉岡「(明るく)覚えてないのは当然。高校ん時は地味で目立たないヤツだったから。地味で目立たないのはいまもそうだけど(快活に笑う)」

#8 いしかわ四高記念公園のベンチに腰掛けて話す吉岡と香澄

香澄「(ふと真顔になって)ねえ吉岡さん……目を閉じると、あなたの顔が浮かぶの」

香澄、携えたスケッチブックを開いて見せる――そこに描かれた吉岡の顔。

香澄「吉岡さんの顔が浮かぶと胸が切なくなるの。この気持ちは何？ あなたは誰？」

吉岡「いい店を知ってるんだ。一緒に行かないか」

#9 「スナック香澄」店内

入ってくる吉岡と香澄。

カウンターの中には美鈴とアヤカ。客にあかり、末吉、オネエ所長やサオリがいる。

香澄「(店内を見回して)……」

香澄に向かって微笑む店内の人たち。

香澄「(思い出せない)」

フラッシュ(回想)——カウンターの中に立つ香澄。客たちの笑顔。

香澄「(何かを思い出して、涙があふれ出す)みんな……！」

一同「お帰り、香澄ママ」

吉岡「(微笑んで)なあ香澄、オレの嫁さんになってくれないか」

アヤカのOFF「何百回目のプロポーズで吉岡さんの夢が叶いました。香澄ママと吉岡さんの結婚式は美鈴さんとサトシさん、オネエ所長と杏子さんの3カップル合同で行われたのでした」

#10 教会

バージンロードを歩いてくるウェディングドレス姿の香澄、美鈴、杏子。

祭壇のところで待つタキシード姿の吉岡、サトシ、オネエ所長。

参列したアヤカや末吉、沙織、菜摘、ハル、桐島たちが祝福している。

——子育てに奮闘する美鈴とその傍らで化粧しているあかり。

アヤカのOFF「美鈴さんは3人の子どものママになりました。サトシさんはいまも`片町のシンデレラ、としてお水をやっています」

——車いすの香澄とその傍らに立つ吉岡が穏やかな表情で海を見つめている。

アヤカのOFF「香澄ママの病気は少しずつ進行していきました。でも吉岡さんが献身的に介護を続けています」

——オネエ所長やサオリ、菜摘たちの前で誇らしげにピアノを弾いている杏子。

アヤカのOFF「ピアノを猛練習した杏子さんは、みんなの前で`カノン、を弾きました」

——袴姿で大学の卒業式に出席した菜摘と抱き合って喜ぶオネエ所長。

アヤカのOFF「なっちは大学を卒業するまでオネエ所長のもとで暮らしました。なっちはいま、オネエ所長のことを`お母さん、と呼んでいます」

——トオルの墓に合掌しているアヤカの後ろ姿。

アヤカのOFF「そしてあたしは……いまもトオルさんのことが忘れられません。でも悲しくなれない……一生に一度の恋と出会ったのだから」

——白髪頭の老婦人となったアヤカ。その傍に若々しいトオルが寄り添っている。

#11 結婚式の記念写真

3組のカップルを囲んで登場人物たちが幸せそうに笑っている。

おしまい